特集『高福祉・高齢化社会と木材（その2）』に寄せて

－ユニバーサルデザインと林産試験場の取り組み－

米 田 昌 世

キーワード：ユニバーサルデザイン，視覚障害者，舗装資材，家具，遊具

すべての人が暮らしやすく，それぞれの生活を楽しめるような社会をつくる…そのためのキーワードのひとつにユニバーサルデザインがあります。ユニバーサルとは「普遍的な，すべての」という意味です。したがってユニバーサルデザインとは，製品，建物，環境を，あらゆる人が利用できるように初めから考えてデザインするという概念でアメリカの工業デザイナーによって提唱されました。

一方，バリアフリーデザインという言葉もあります。バリアとは「障壁」という意味です。障壁をフリーにする(取り除く)ことを意味します。例えば，歩道や家の段差をなくして車いすの人が利用できるように工夫することです。このバリアフリーデザインの考え方も，問題解決のためには有効で大切なことです。ただし，これは後付けの方法ですから，初めにバリアが存在し，そこからスタートするデザインの方法といえます。つまり最初は使えない人が存在することになります。これに対しユニバーサルデザインは最初からバリアが取り除かれていることを目指しています。初めからあらゆる人が使えるようにデザインしておくところが，バリアフリーデザインの概念とは大きく異なります。

日本でもユニバーサルデザインの概念が採用され始め，衣料品，包装・容器などの設計指針についてはすでにJISが出来ています。また，製品の評価方法についても規格化の方向で作業が進められているところです。視覚，聴覚障害者を含め年齢構成も各階層にわたるように(製品によっては年齢構成を変更する)選んだモニターによって，使いやすさが評価され，一定の評価を得た(候補)製品がユニバーサルデザイン製品として認定されることになります。

積雪寒冷という北海道の地域に根ざした特色のある福祉環境を整備することを目的に，道立の4つの研究機関*によって北海道重点研究『北国型福祉社会における住生活環境整備に関する研究』(平成8～12年度)が実施されました。

林産試験場は，上に述べたユニバーサルデザインの観点に基づき，以下の6つの研究課題に取り組んできました。

(1)快適性を考慮した木質内装材等の開発　(2)安全性と居住性を考慮した床仕様の開発
(3)福祉住宅用開口部材の開発　(4)積雪・寒冷を考慮した半戸外空間構造物の開発
(5)積雪・寒冷を考慮した舗装資材の開発　(6)福祉用家具・遊具の開発

本特集号では，これらの研究課題の中から顕著な成果が認められたものについて，内容をわかりやすく解説します。具体的な成果品としては，福祉住宅用開口部材，視覚障害者用の舗道ブロックおよび冬季道標システム，障害を持つ児童も遊べる遊具，高齢者福祉施設用のベッドサイド家具など多岐にわたっています。改良の余地が残されているものもありますが，多くは実証試験を経て実用化の段階に達しています。また，関心を持つ企業と製品化に向けてさらに共同研究へと発展しているケースもあります。

本特集号では触れていませんが，内装材や床仕様，半戸外空間構造物(ウィンターガーデンとパーゴラ)に関する研究も行われました。得られた多くのデータは，今後，福祉住宅の設計などに生かされるものと期待されます。

なお，当研究の成果の一部はすでに本誌(平成11年10月号特集「高福祉・高齢化社会と木材」)に掲載されており，今回の特集では主にこれ以降の成果を取り上げました。

*：工業試験場(主管)，寒地住宅都市研究所，心身障害者総合相談所および林産試験場の4機関。

（林産試験場　技術部主任研究員）